



インフルエンザが激減！

「あいうべ体操」の効果か？！



朝の会で「あいうべ体操」をする5年生

加わったのではないかと考えております。

「あいうべ体操」は、博多にある「みらいクリニック」の院長、今井一彰氏が考案したもので、体操によって口呼吸が鼻呼吸になり、多くの唾液が分泌されるようになるそうです。万一、口にウイルスが入ってきてもほとんど死滅させてしまうというのです。実際、福岡の小学校で「あいうべ体操」を試みたところ、インフルエンザにかかる子どもが激減したということでした。本校でもインフルエンザにかからない強い体になることを期待して、朝の会と終わりの会に毎日実施するようにしてきたのです。ぜひ、お家でも実践してみたいはいかがでしょうか。やり方については、お子さんに聞いてみてください。

2月に入るとインフルエンザが日本全国的に猛威を振るっているというニュースが報じられ、市内においても学年や学級閉鎖に追い込まれている学校が出てきております。

本校でも、1月中旬より数名の児童がインフルエンザによる出席停止となったため、マスクの着用や給食における班ごとの会食を中止して対策を講じてきたところです。そういった効果もあって感染の拡大には至らずに直ぐに収束していきましました。また、これには、今年度から実施している「あいうべ体操」の効果もそれに

「あいうべ体操」

1. 「あー」と口を大きく開く
 2. 「いー」と口を大きく横に広げる
 3. 「うー」と口を強く前に突き出す
 4. 「べー」と舌を突き出して下に伸ばす
- ※上記の流れを1セットとし、1日20セットを目安に毎日続ける

「五小ネットモラルの日」

学年ごとに授業公開 2.19

インターネットにつながるゲーム機器等の適切な使い方やモラル、危険性を学ぶ「五小ネットモラルの日」として、保護者の方に授業参観をしていただきました。子ども達のネットに関する最近の意識の変容もあり、学年ごとに課題を設定し、親子で共有しながら学んでもらいました。授業を受けた保護者からは、「子どもより、むしろ親の方がネットに潜む危険性を知らないでいたので、すごく参考になった。」といった感想が多く寄せられました。

インターネットにつながるゲーム機器等の適切な使い方やモラル、危険性を学ぶ「五小ネットモラルの日」として、保護者の方に授業参観をしていただきました。子ども達のネットに関する最近の意識の変容もあり、



学校評価についてお知らせします

運動大好き
友達大好き
勉強大好き

27年度の「学校評価」の集計・分析がまとまりました。児童・保護者の各アンケートの集計表は裏面に添付しておりますのでご参照願います。

1 児童のアンケートから

＜昨年度の数値と比較した経年評価の分析も一部含みます＞

(1)自尊感情・自己有用感の醸成 — ここ数年本校の課題であった。しかし、今年度は、「非常に良好な評価」とまでには至らなかったものの、自尊心については約72%→83%へ、自己有用感については約61%→約76%へと飛躍的に伸び、嬉しい結果となった。

(2)体づくり — 「めあてや目標をもって運動しているかの意識」については、82.6%→89%になり意識が大きく高まった。

(3)心づくり — 「思いやり・励まし・支え合い」について、できたと感じている児童の割合が、84.9%→89.7%と昨年度より高くなった。また、新しく項目に加えた「友だちとの温かい関わり」については、88.1%の児童ができたとしていた。

(4)学びづくり — 今年度項目に新しくつけ加えた「主体的な学習」

については、できたと感じている児童が85.8%であった。ただ、学年・学級等により少々バラツキが見られたので、児童の実態や意識をしっかりと把握する教師の技量向上と更なる授業改善を図り、意欲的に授業に参加できる児童を一層増やしていきたいと考える。「価値あるかわりあいを通した学び合い」は、87.3%→91.3%と高い伸びを示した。「学び合い」を切り口に授業改善に取り組んできた研究の成果が表れてきていると考えている。



学級チームによる連続縄跳びへの挑戦！

(5)学校生活全般 — 「五小は元気に登校できる楽しい学校である」と評価した児童が91.9%→96.4%へと大きく飛躍した。学校のキーワードである「居心地のいい温かな学校」に直結してきている。

2 保護者のアンケートから

(1)全般的な傾向として

全ての項目において、「そう思う」かつ「だいたいそう思う」を合わせると90%以上となり、大変嬉しいことである。ただ、児童評価では「温かい関わりや思いやりのある行動がとれるようになった」と答えている児童の割合が伸びているのであるが、保護者からの評価では、ほぼ横ばいの傾向にあった。ややもすると、児童らで良好な人間関係づくりができるようになってきていることを保護者に伝えきれていないとも考えられる。今後、温かい関わり合いの場面を可視化するなどして伝えていきたい。

(2)自由記述から

「おひさまフェスタでの子ども達の姿に感動した」との意見が多数寄せられた。また、さらに良くなって欲しいとの願いから、「様々な集団とのより一層豊かな「交流」の構築」「図書に親しめる環境づくり」「安全・安心で明るい学校環境づくり」「児童の悩みを受け取る環境づくり」「心のコントロールの仕方を学ぶ機会づくり」「情報の伝達方法の工夫」など、建設的なご意見を多数いただいた。